三浦ひろき2018年活動報告

関わることを、おもしろく。

01
FIRST ISSUE

01. INTERVIEW 関山 隆一 × 三浦ひろき 特別対談
02. ACTION 6つのアイデアに対して取り組んだこと
03. COLUMN コラム「一年を振り返って」
04. INFORMATION 最新情報とプロフィール

特別対談 「どんな子どもを育てるか」より、「どんな子育て環境をつくるか」

関山 隆一
Ryuichi Sekiyama（もあなキッズ自然楽校理事長）
三浦ひろき
Hiroki Miura（浜田市議会議員）

01. INTERVIEW

浜田をよくするための６つのアイデアの中では、「子どもたち」に多く触れています。未来を考える時、その未来をつくっていく彼らが、今をどのように過ごすかはとても大きな課題です。どんな環境を用意するべきか。
今回は、神奈川県で森のようちえんを運営する関山隆一さんとお話をさせていただきながら考えてみました。

森のようちえんとは？
北欧で発祥した、自然環境を利用した幼児教育や子育て支援活動
（＊NPO法人森のようちえん全国ネットワーク連盟HPより抜粋）

自然は最高のアトラクション

三浦：ここ（緑道）、よく来られるんですか？

関山：ええ、ここからずっと１キロ四方園庭です（笑）。あのあずまやに毎朝おじいちゃんおばあちゃんが話してて、うちの子たちが来ると「おはよう」って声をかけてくれます。うちは雨の日でも外遊びに出ますから水たまりもそこの木も全部アトラクションです。

三浦：最高の園庭ですね。新しい園も最近できましたね。もあなキッズ自然楽校を設立された当初から一番大事にされていることは何ですか？

関山：園自体は増えていってますけど、大事にしてるのは量より質。例えば、茅ヶ崎は0-５歳で24人なんですが、ちょっとした大家族という雰囲気です。小田原や大磯も９人という小規模なので、保育者もかなり手厚く関わることができる小さなコミュニティなんです。そこは大事にしています。

三浦：「質」を気にかける部分はいろいろありますよね。例えば、給食とか園舎とか。

関山：そう、食事は気にかけています。体内に入るものなので、自然なものを取り入れることは当然だと思っています。それから触れるものも。木育を意識しています。今までは東北の木材を使っていましたが、今はご縁もできて、地元のものを使うようになりました。そういうところの質も落とさないっていうこだわりはもっています。

浜田はすばらしい資源に溢れている。

三浦：この前は、浜田まで来てもらってありがとうございました。街を見てもらって、率直に浜田の子育て環境をどういうふうに思われたかなと。

関山：地方に行くと必ず地域資源の話をするんですけど、まず浜田は海があって、すぐ近いところにぐっと山があったりとか、自然環境は間違いなく素晴らしいですよね。

三浦：海と山が近くて、遊び場としては最高ですよね。

関山：そう、それをもっともっと使われたらいいのになと思いますね。それを生かすっていうのは、日本どこでもそうかもしれませんが。あと地方で感じるのは生活文化。浜田だと石見神楽はその一つですよね。それから世界子ども美術館も。浜田はすばらしい資源に溢れてますよ。

三浦：島根に帰って7年経つんですけど、改めていいなと思うのはそういうところなんですよ。自然環境はもちろん、例えば、神楽なんかもそうですけど、伝統的な芸能や工芸に関わる人がたくさんいるとか。僕は山が好きなんですけど、山に行くと全部が遊び道具・遊び場です。それは子どもたちにとっても保育の現場にも言えるんじゃないかなって考えていたら、関山さんが森のようちえんというスタイルで実践されていて。関山さんの考え方・活動には、共感するところがとても多かったんですよね。区切られた空間にいるよりオープンスペース（まち）に出ていくと、触れられる物事も無限ですし。自然環境だけじゃなくて、「まち」そのものにたくさん触れてもらえるような、仕組み・機能があるといいなと思っています。森のようちえんというか、まちそのものが保育園みたいなね。

町の文化を体感することが大事。

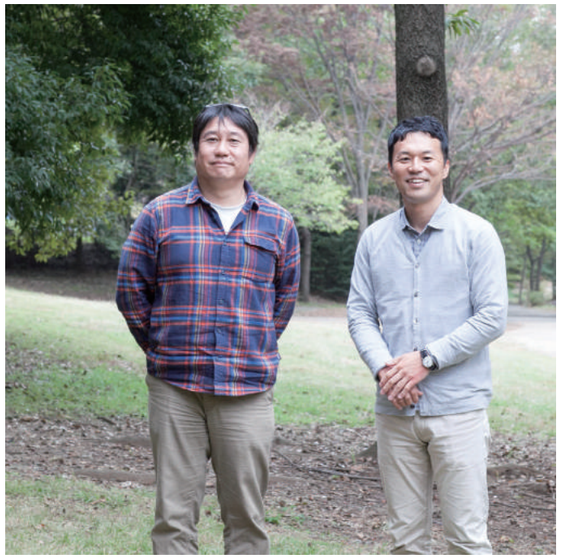
関山：例えばデンマークとかスウェーデンっていうのは、本当に普通の森に舎があるって感じなんですけど、日本では、それに加えて文化的なものとの調和がキーワードなように思うんですよね。大磯町も町並みや地域文化がきちんと残っている。そういうところがよくて。おじさんがお祭りの準備をしてるのを目にするっていうのは、地域で子どもが育つ上でとっても大事だと思うし、だんだんそういったものが憧れとか尊敬につながっていくと思うんですよね。芽生えです。

三浦：僕、保育園のときに神楽の時間みたいなのがあったんですよ。衣装もあって、それ着て「何となく」舞うんです。ここで鬼が出てきて、こんな感じで退治してとか。お祭りの時に見て覚えるんです。保育園の先生も、大体知ってるから、教えるというか見守ってるわけです、僕たちを。日常に染み付いた文化ってすごいですよね。

地域性を最大限使うべき。

三浦：改めて、関山さんはどんなスタンスで子どもたちを見たり、その環境づくりをされているんですか。

関山：まず、子どもたちはみんな、そもそも資質・能力というものを潜在的に持ち合わせてます。資質は一人一人違って当然なわけです。そこを注視しながらその子のよさというものを最大限に伸ばす。だからみんな形が違っていいと考えています。僕たちはそういった環境を用意してあげる感じかな。僕は、一番大事なことは、やっぱりコミュニティだと思うんですよ。教える教えられるという関係じゃなくて、みんながよくなっていくっていう関係性を築くというね。



三浦：浜田市にも明確な子育て環境ビジョンが必要ですね。○○性とか○○力をつけようっていう話は意外と難しいなって思うんです。一つの指標をつくるんじゃなくて、個々のどんな能力を見つけて、その違いを力に変える環境をどうやってつくるかが重要だと思ってます。まちづくりと一緒です。一つの指標で考えると、均質化するじゃないですか。自分の土俵をつくらないと。このまちではこういう子育て環境をつくっていくんだっていうものを。そして地道に実行する。それが、共感を生んで安心感につながるんだと思います。

関山：幼児教育・教育において、これからは独自性を出しやすい地方が牽引する時代になると思いますよ。地域性を最大限使うべきです。浜田でもそんなビジョンの共有ができるとよいですね。応援してます。

関山 隆一 Ryuichi Sekiyama
NPO法人もあなキッズ自然楽校
理事長

PROFILE
1971年神奈川県生。1998年ニュージーランドに渡り国立公園にて現地ガイドとして働く。その後パタゴニア日本支社を経由し、2004年に帰国後アウトドアオペレーターの事業を立ち上げ、2007年NPO法人もあなキッズ自然楽校を設立。森のようちえんや自然体験活動を通して、長期的な子育て支援環境の確立及び地域に根差した実践を行いながら、NPO法人森ようちえん全国ネットワーク連盟理事として日本の森のようちえんの普及活動に力を注ぐ。
現在、東京都市大学人間科学部非常勤講師。
ウェブサイト：www.moana-nursery.com

関わることを、おもしろく。

三浦ひろき2018年活動報告
©三浦ひろき事務所（禁・無断転用 2018年12月4日）
Copyright©2018 miurahiroki office All rights reserved.

02. ACTION

浜田をよくするための6つのアイデア

6つのアイデアに対して取り組んだこと

01 学校と地域社会との距離を縮める環境を整えます。

第一回目の三浦ひろき活動報告会では、益田市の豊川小学校で活動する社会教育コーディネーターの市川恵さんをゲストに迎え、学校を拠点に展開する様々な地域活動の様子を学び、浜田の教育環境について参加者の方々と意見交換をしました。浜田市が行う「共育」を引き続き応援します。松原小学校と三階小学校で児童たちと話をする機会もいただきました。たくさんの働く場所と働き方があることを知ってもらって、将来の可能性を大きく広げてほしいと思います。3 月の一般質問では、教育の魅力化を多角的に検討し、事業を遂行するチーム作りの重要性と合わせ、全体を統括する人材の必要性について取り上げましたが、先般の補正予算にて地域コーディネーターの配置が決定しました。学校と地域をつなぐ重要な役割に期待するとともに、今後の活動を追いかけていきたいと思います。

02 市民一人ひとりの力をまちの力に変換する仕組みをつくります。

広島県尾道市に 5 年前に開校した尾道自由大学。「知識を得る」よりも「疑問を持つ」ことを大事にするこの学校の講義はどれも魅力的で、それに引き寄せられるように、市外から多くの人が受講を目的に訪れています。学びが観光の目的になるんです。こんな学び場をつくりたい。「盛り付けデザイン学」なんていうのもあります。わが町の豊かな食材、それを彩る道具を生み出す人たちを主人公に講義ができないだろうかと考え、この度、邑南・江津・浜田を舞台に講義を企画しました。浜田では、和紙すきや機織りでランチョンマットをつくり、弥栄の方々につくっていただいた郷土料理を盛り付け、食べて、交流しました。「浜田って素敵な町ですね。」をたくさん聞きたくありませんか？今ある資源の有効活用と再編集で、もっとおもしろい地域が表現できます。浜田らしい観光施策の推進を今後も提案していきたいと思います。

▲講義の様子をぜひご覧下さい。

03 「浜田にいても最先端」をキーワードに、公共施設を経営します。

公共施設を魅力化するには、民間活力の活用がキーワードになると考えています。9 月の一般質問において、公民連携事業（PPP/PFI）の推進を提案しました。国は、20 万人未満の小規模都市でも今後は推進すべきとしています。市民サービスが最も良い形で提供されるよう、最適な手法を審議するプロセスがあって然るべきです。地方都市における実践の可否などについて、専門家との意見交換をはじめました。引き続き研究していきます。また、鹿児島市、高山市のファブラボ（＊注）を視察してきました。山間地の廃校と、もう一つはスーパーマーケットの中。資源活用の新しい手法や生活の動線に配置するという工夫は、他の事業づくりについても参考になります。3D プリンター、レーザーカッター、ドローンなど、ものづくりをいつでも楽しむことができる場所があるなんてうらやましい。ご興味のある方、ぜひ一緒に場所作りに挑戦してみませんか？

（＊注：ファブラボ…多様な工作機械を備えたオープンな実験室）

6 IDEAS + ACTION

04 社会の変化に対応した企業・産業の成長機会をつくります。

新しい地域産業として「エネルギー」に注目しています。9 月の一般質問において、エネルギーの地産地消の推進を訴えました。ガソリン、灯油、ガスなどの資源は多くを輸入しています。つまり地域外への依存度が高いということです。その点、再生可能エネルギーは一般的に言われる環境効果に加えて、持続可能な生産や地域内経済の循環といったメリットが大きい。公共施設などでも、省エネ・再エネの考え方をもっと取り入れるべきです。新設予定の子育て支援センターでも配慮されるとのこと。訪れる親子、働く方々みんなにとって健やかに過ごせる施設の建設を強く要望していきます。現在、浜田市では、地域資源活用推進条例や地産地消推進条例のもと、地産地消による内需拡大が推進されています。そこに「エネルギー」を加えるべく、条例改正に向けて働きかけています。

05 市内外の人が交流しやすい環境と機会をつくります。

人口減少に伴い、地域の活動人口を増やす考え方として、近年言われるようになった「関係人口」。観光以上・移住未満、関わり方に決まりはありません。その代名詞と言える事業が、実は島根県が 7 年前から行っている「しまコトアカデミー」。都市部にいながら自分なりの島根との関わり方の整理を半年かけて行うという講義で、僕はメンターとして今年も関わらせていただいています。関わり方を具現化するためには、関わってほしい側、関わりたいという意思を持っている側双方の考えを見える化する必要があります。浜田にある「関わりしろ」をたくさんの方々に発信する、自称関係プロデューサーとして、浜田の関係人口増加に向けた活動を様々な立場でしていきたいと思います。

06 コミュニティづくりの手法に創意工夫を持ち込みます。

これまでの議会に足りなかったことの一つに、「対話の場」が挙げられると思います。議会と市民をつなぐ大事な役割を果たすのが、議会広報広聴委員会。年 4 回配布される議会広報誌の作成や、議会報告会の企画・運営を中心になって行うのが主たる役割です。これまでの経験が生きるところと、読まれる広報誌のための工夫や、議会報告会の運営方法の改善案を企画・提案しました。成果としては、先般開催された井戸端会議後の議員間討議の開催決定です。浜田市議会では初の試みです。各議員がどんな考え方をもっているかも分かりますし、拾い上げた意見をどう政策に結びつけるかをしっかり議論することが議会の役割だと考えます。結果は HP などでも公開予定です。引き続き、わかりやすい編集やワークショップの質向上に努めていきたいと思います。

03. COLUMN

コラム「一年を振り返って」2017-2018

こんにちは、三浦ひろきです。

議員活動がはじまって、あっという間に一年が経ちました。予算審議や事業審査を通じて、市内各地域の異なる魅力や課題を掴むことができました。同時に中山間地域における施策づくりの難しさも改めて感じています。

この間開催された 4 回の定例議会においては、一般質問を特に大事な時間として、テーマを幅広く選びながら臨みました。今後は質問力を高めて、引き続き取組みの進捗を追うとともに、施策の効果をしっかりチェックしていきたいと思います。

また、もう一つ意識してきたことは、まちづくりの活動範囲を議会の中にとどめないことです。行政が担うべきと思うことは議員として後押しをし、僕たちでできること・やりたいことは NPO や与えられた役割の元で、仲間を集めて形にする。そんな関わり方を実践してきました。中には浜田だけに留まらず、近隣市町まで少しエリアを広げて考えることで、効果が高まる活動も少なくありません。

まちづくりは、まちのネタづくりです。そのネタに関わることをおもしろいと思っていただけるよう、きっかけをつくり続けていきたいと思います。今後とも、三浦ひろきの活動にご注目いただき、叱咤激励いただけましたらこの上なくうれしいです。

04. INFORMATION 最新情報とプロフィール

氏名：三浦 大紀（みうら ひろき）

1980.1.29　浜田市生まれ　38 歳

国府保育園→松原小学校→浜田第一中学校→浜田高校→早稲田大学政治経済学部　衆議院議員橋本龍太郎・橋本岳秘書、NPO 法人日本リザルツ事務局次長を経て、浜田市へ U ターン。NPO 法人てごねっと石見のスタッフとして、商店会活性化事業や創業支援事業などに携わる。2014 年に株式会社シマネプロモーションを設立し、県内企業や自治体の事業開発支援を行う。

2018 年 10 月浜田市議会議員初当選。現在、産業建設委員、議会広報広聴委員、議会運営委員、自治区制度等行財政改革推進特別委員、中山間地域振興特別委員、浜田地区広域行政組合議会議員、浜田市都市計画審議会委員。

NPO 法人てごねっと石見 / 理事、オールしまね COC＋事業（島大・県大・松江高専）/ キャリアプランナー、しまコトアカデミー / メンター、産業振興財団よろず支援拠点事業 / サブコーディネーター

●趣味：山登り、DJ　●尊敬する人物：橋本龍太郎
●好きな言葉：幸せ　おいしい　美しい　健康　最高　遊ぶ　無自性
●長所：思い立ったらすぐ行動する
●短所：忘れっぽい

〔事務所案内〕
697-0033　浜田市牛市町 75 ｜TEL：050.5216.0261
問い合わせ：info@miurahiroki.net
ウェブサイト：www.miurahiroki.net

＼活動報告やってます／

議員活動が始まってから、概ね週に一度の活動報告を記録しています。バックナンバーもありますので、ぜひご覧ください。